

IV-22

地方部における公共交通の利用実態と住民意識について

秋田大学 学生員○荒木 慎平
秋田大学 正会員 木村 一裕
秋田大学 フェロー 清水浩志郎

1 はじめに

秋田県雄和町では、平成12年8月より従来の民間バス事業者の路線バスに代わり、町の運行する循環バス・ユーグルを開始した。ユーグルは一乗車100円で利用でき、役場で秋田市方面の基幹バスと接続している。利用者数は導入時から現在まで横ばいとなっており、一定のサービスを維持しているが、導入から3年が経過し、ユーグルの周辺環境や、住民意識の変化が考えられる。

本研究では、循環バス・ユーグルに対する評価、公共交通に対する意識などについて明らかにし、地方部における公共交通のあり方について検討することを目的とする。

2. 現在のユーグルに対する住民の評価

本研究では、雄和町民の交通実態や公共交通に対する意識を把握するために、アンケート調査を行った。調査内容を表-1に示す。

表-1 調査概要

調査日	2003年12月中旬
対象者	雄和町全世帯（2137世帯）
調査方法	「広報ゆうわ」に挟んで配布
配布部数	1世帯2部・全4278部
回収数	748票（17.5%）
利用交通	バス313票、バス以外345票
利用者の年齢	20代以下14%、30～50代11%、60代以上75%
バスの利用頻度	ほぼ毎日11%、週3・4回11%、週1・2回28%、2週に1回34%、月1回5%、その他11%
利用目的	通勤3.3%、通学10.6%、買い物17.9%、通院32.5%、娯楽（温泉など）17.0%、私用13.7%、その他5.0%

ユーグルに対する住民の評価について、ユーグル利用者と非利用者の結果を図-1に示した。

「運行路線の適切さ」についてはバス利用者が72.3%と高く評価しているが、非利用者は51.9%と半数にとどまっている。「低い運賃による利用促進」についてはバス利用者で83.5%と全項目の中で最も高く評価しているが、非利用者も68.4%と高く評価している。

「住民の外出確保」についてはバス利用者・非利用者とも80%前後で高く評価している。「運行費用改善の必要性」はバス利用者・非利用者とも30%程度と低い。

「乗っている人が少なく非効率」はバス利用者・非利用者とも半数を超えている。このようにユーグルについては、利用者・非利用者とも、その意義を高く評価するとともに、効率性については同様に厳しく評価していることがわかる。

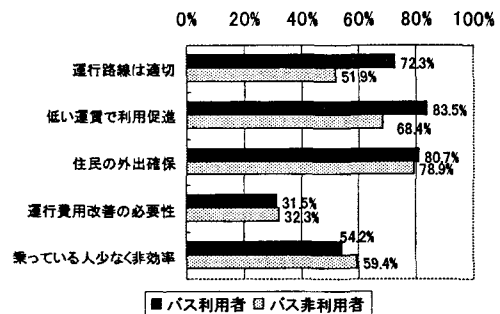


図-1 現在のユーグルに対する評価
(値はそう思う、ややそう思うの合計)

3. 新たな路線に対するニーズと路線

(1) バス利用者が希望する行き先

以上のようにユーグルは町民の交通を確保する意味で一定の評価を得ていることがわかる。他方ユーグルが導入されてから、雄和町や秋田市の土地利用にも変化が見られており、これに応じた運行を求める意見も少なくない。図-2はユーグルと基幹バスの運行路線であるが、御所野や日赤病院を経由する路線は1日2往復しかない。

今回の調査でも、バス利用者の23.6%が御所野・SCへ、11.2%が日赤病院へ行きづらいついて回答し、このバス路線を利用したいとしている。このうち家族に自動車を運転する人がいる場合には、バスを利用する機会はいさほど多くないと考えられるが、回答者のうち自動車を保有しない世帯の人は46人であり、これらの人はかなり高い確率で利用が期待できる人であるといえる。

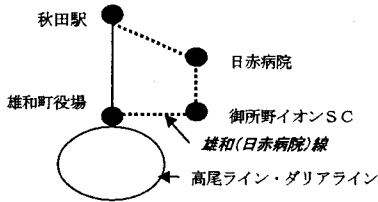


図-2 雄和町周辺のバス路線簡略図

(2) 御所野へのバスが充実した場合の評価

次に、御所野へのバス（雄和（日赤病院）線）の本数が増加した場合の、利用意思の有無に影響する項目について、数量化Ⅱ類を用いて分析した。（表-2）

表-2 御所野へのバス利用に影響を及ぼす要因

アイテム	カテゴリ	全体	カテゴリ数	レンジ	順位
乗り換え時時間調整できて便利	そう思う	222	0.30	1.54	1
	中間	135	-0.27		
	そう思わない	24	-1.24		
乗り換え時買い物ができて便利	そう思う	208	0.36	0.94	4
	中間	145	-0.41		
	そう思わない	28	-0.57		
各方面へのバスに乗り換えることができて便利	そう思う	199	-0.29	0.64	6
	中間	160	0.35		
	そう思わない	22	0.09		
乗換えが面倒・苦痛	そう思う	64	-0.84	1.09	2
	中間	202	0.12		
	そう思わない	115	0.25		
今までより時間がかかる	そう思う	86	-0.29	0.53	7
	中間	207	0.23		
	そう思わない	88	-0.26		
今までより遠回り感がある	そう思う	94	-0.26	0.85	5
	中間	205	-0.12		
	そう思わない	82	0.59		
今までより割高感がある	そう思う	84	0.65	1.03	3
	中間	210	-0.38		
	そう思わない	87	0.28		
相関比			0.13		

第1群	0.3748
第2群	-0.3356

この結果を見ると、レンジの最も大きいアイテムは「乗り換え時に時間調整ができて便利」であり、次いで「乗換えが面倒・苦痛」である。このことから、SCでの乗換えを不便と感じるか、あるいは買い物や時間調整に便利と感じるかによって、利用意思が大きく異なることがうかがえる。

4. 公共交通に対する意識・評価

雄和町は平成17年に秋田市との合併が予定され、その運行環境が変化することが予想される。そこで今後のユーグルの運行について、住民の負担意識を含めてたずねた結果が図-3である。

この図を見ると、町の負担や一部の利用者の負担でユーグルを維持すべきという回答は、利用者で75%、非利用者で55%となっている。これとは逆にユーグル以外の交通を含めて検討すべきという回答は、利用者

で23%、非利用者で39%を占めている。

利用者の負担について、運賃の値上げに対する反応としては、現在の100円の運賃から150円としたとき、利用が減るとした割合は高齢者が最も低く18%であり、若年になるほど高くなっている。しかし200円になると60代以上でも利用が減る割合が50%と、150円に比べてかなり減少している。

ユーグルを含めた多様な交通システムに対する意識として、現在一部の自治体で実施されている事例を3つ示し、各システムについて評価してもらった。（図-4）この図より、全体としてはデマンド式乗り合いタクシー、コミュニティカー、お買い物バス券の順に高くなっている。バス利用の有無別にしてみると、バス利用者でお買い物バス券の評価が高く、先のバス路線の料金を含めて、検討の価値はあると考えられる。

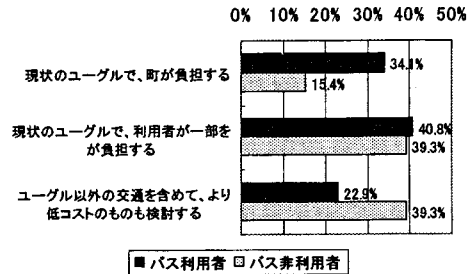


図-3 町の交通確保に対する住民の負担

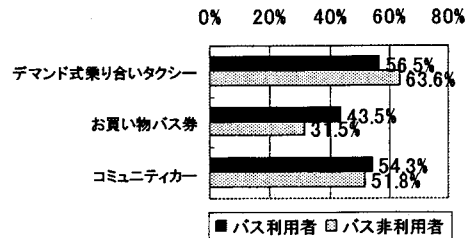


図-4 さまざまな交通システムに対する意識

5. まとめ

本研究では、秋田県雄和町での公共交通に対する住民の評価に注目して分析を行った。その結果、現在のユーグルに対する評価は特にバス利用者から肯定的な評価が得られた。今後、秋田市との合併も踏まえ、広域的に交通システムを検討し、連携させていく必要があると考えられる。

アンケートの実施に当たっては、雄和町町民生活課 京極 進氏をはじめ、雄和町のみなさまにお世話になった。ここに感謝の意を表します。